

学ぶことの本当の意味を知っていますか？（令和4年6月号） 西郷どんの教え その41

2019年5月から3年、西郷隆盛の曾孫である西郷隆文氏が、「南洲翁遺訓」についてわかりやすく青少年向けに書かれた「西郷どんの教え」全四十一章の中から三十章の遺訓を紹介させていただきました。いよいよ今回は最終章です。

「よく勉強し、人にも好かれ、心が穏やかな人も、何か事が起こった時にその対応ができない人は、木で作った人形のようなもの・・だから普段の準備が何より大事なことだ。つまり、勉強というのはただ、文章を読んだり書いたりすることではなく、何かが起こったときにこれを上手に処置できる才能を磨くことを言うんだ。スポーツも道具を上手に使いこなすことではなく、試合の相手の事をよく知ってこれに勝つ才能と知恵があるかどうかが大事なことになるんだ。」と言っています。

西郷さんは、維新という時代の中で常に勝敗を意識し、「勝つこと」が「生きること」と諭していると感じていましたが、最後にとっても切ない気持ちで「そうであろうか？」と疑問を持ちながら、問いかけています。

私は、学ぶこととは疑問を持ち問いかけること、そして考えてみることであり、学び続ける喜び（探究心）を持ち続けたいと思います。